

# 石山合戦図絵馬

野々市市指定文化財  
二日市荒川神社所蔵

石山合戦とは

元亀元〜天正八年（一五七〇〜八〇）の織田信長と石山本願寺・一向一揆の戦い。織田信長の政策により両者の関係が悪化し、元亀元年九月に本願寺が挙兵した。本願寺の頭如は各地の一向宗門徒に決起を促し、浅井氏などの反信長勢力と同盟関係を結んで反抗したため、西日本を大きく巻き込んだ戦いとなった。天正四年（一五七六）より大坂の石山籠城戦が開始され、信長は雑賀衆と戦った。天正八年（一五八〇）、本願寺が勅命講和をのんで終結。これまでで最大の一向一揆を屈服させたとして信長の天下統一が現実的となった。

（参考『山川日本史小辞典』山川出版社）

詞書翻刻 欠字□□ 文字数不明の欠字□□：

※詞書：画中の説明文のこと

- ① □□□大谷の御坊をせむ
- ② 蓮如上人落給う
- ③ 欠
- ④ □□□孔子すわ□□（後世の補修か）
- ⑤ □□□石山寺□□た□
- ⑥ □字□□□給ふ
- ⑦ 欠
- ⑧ 本願寺大兵所
- ⑨ 欠
- ⑩ 「右」鈴木重幸八陣（陣）を敷く  
「左」竹中半兵衛堀尾帯刀八陣（陣）をやふる
- ⑪ 欠
- ⑫ □□：□入
- ⑬ 羽柴秀吉鈴木重幸□戦
- ⑭ 石山の□□□□ふ
- ⑮ 「右」丹羽幸左衛門鷲森せめる  
「左」頭如上人鷲森御真影にいとまこひ
- ⑯ 鈴木孫市□□おとる

## 解説

①・②は、寛正六年（一四六五）、比叡山法師らが<sup>①</sup>大谷御坊（本願寺）を攻め、<sup>②</sup>蓮如上人が近江へ落ち延びるという蓮如上人の受難の場面である。時代は変わって<sup>③</sup>以降は元亀元年以降の石山合戦の様子が描かれている。⑩では鈴木重幸（孫市）が八陣という陣形を展開するが、竹中半兵衛に破られる場面である。⑬は秀吉と孫市が戦う姿が描かれる。天正八年に本願寺が勅命講和をのんだ後、拠点<sup>⑭</sup>は紀州鷲森に移る。⑮は鷲森御坊を織田勢の丹羽長秀が攻める場面である。⑯は、本能寺の変での信長の死亡の報を受けて孫市が踊る場面と考えられる。



# 賤ヶ岳合戦図絵馬

野々市市指定文化財  
二日市荒川神社所蔵

賤ヶ岳（嶽）の合戦とは

天正十年（一五八二）の本能寺の変での織田信長亡き後、羽柴秀吉は山崎の戦いで明智光秀を滅し、後継として信長の孫である秀信を立てたが、旧臣の筆頭格であった柴田勝家は信長の三男信孝を擁してこれに対抗した。

秀吉は越前国北庄（現福井県福井市）に居城する勝家が雪で行動困難な時期を見計らって美濃から兵を進め、信孝を孤立させた。勝家はこれを助けるために南下し、賤ヶ岳（現滋賀県長浜市）で合戦が行われたが敗退し、居城の北庄で自殺した。

（参考『日本歴史大辞典』小学館）

翻刻 欠字□□ 文字数不明の欠字□□：

- ① 欠
- ② 欠
- ③ 焼：
- ④ □□清□ □□間盛政戦ふ
- ⑤ 欠
- ⑥ 加□清正勇戦
- ⑦ 欠
- ⑧ 福嶋市松 拜郷□エ門を討
- ⑨ 欠
- ⑩ 脇坂甚内 近藤を落す
- ⑪ 血：
- ⑫ 清正：討
- ⑬ 秀吉：

## 解説

詞書きのほとんどが欠損している。

①は本能寺の変の後に開かれた織田家の後継を決める清須会議の場面と考えられる。

④は「清」の字より、中川清秀と佐久間盛政の戦いか。

⑥は加藤清正勇戦とあるがどの戦いを指すか不明である。

⑧は詞書きより、拜郷五左衛門（家嘉）が賤ヶ岳の七本槍の一人である福島正則に討ちとられる場面である。

同じく、⑩は七本槍の一人脇坂甚内（安治）によって近藤無一郎が討たれ、崖から落とされる場面である。

以降、絵馬の詞書きは断片的となるが、戦いは秀吉軍が勝利し、勝家は越前に落ちることとなる。

解説作成 野々市市教育委員会文化課  
協力 (一財) 石川県保存修復協会